

那珂川水系におけるヤマメ・サクラマス釣りに関するアンケート調査（平成 28 年度）

綱川孝俊

目的

那珂川水系ではヤマメ（溪流ヤマメや本流ヤマメ：川で一生を過ごすもの）やサクラマス（海へ降り大型になって川に戻ってきたもの）釣りが盛んであるが、釣獲時期や大きさなどの実態は明らかになっていない。そこで、今後の持続的利用に向けた取組に役立てるべく、ヤマメ・サクラマス釣りに関する実態把握のためのアンケート調査を行った。

方法

栃木県那珂川漁業協同組合連合会の協力のもと年券販売所において、年券購入者 1,400 人に「ヤマメ・サクラマス釣りに関するアンケート用紙」を配布し、同封した封筒で回答の郵送を依頼した。さらに、釣果情報をより多く収集するため、4 月下旬から 6 月中旬にかけて 6 回、那珂川（大田原市から茂木町）でヤマメ・サクラマス釣りを行っている 154 名にアンケート用紙を配布し、協力を要請した。

那珂川水系で釣りをする人（全魚種）に占めるヤマメ・サクラマス釣りをする人の割合を把握し、那珂川の年券購入者数（全魚種年券および雑魚年券）に乗じることでヤマメ・サクラマスを狙う釣り人の総数を推定するため、「ヤマメ・サクラマス釣りをするかどうか」の質問項目を設けた。また、ヤマメ・サクラマスの釣果に関する情報を得るため、釣った数（尾数）、場所（支流名や市町名）、時期（日付）、大きさ（全長）、形態的な特徴（パーマーク、銀毛、口内黒色、背鰭黒色の有無）、釣り方（餌、ルアー、フライ）、魚の扱い（持ち帰った、川に戻した）の記載項目を設けた。

結果および考察

ヤマメ・サクラマスを狙う釣り人の数の推定 年券販売所において配布した 1,400 枚のアンケートの回収率はわずか 1.0%（14 枚）と少なく、釣り人の数を推定することができなかった。ヤマメ・サクラマス釣りをする人 8 名のうち、本流ヤマメ・サクラマスを主な釣り対象としている人が 4 名、溪流ヤマメを対象としている人が 4 名であった（表 1）。また、釣行記録の記載があったのは、8 名のうち 5 名であった。

那珂川水系における釣獲場所と尾数 前述のアンケートで釣果の記載のあった 5 名にあわせて、現場で

表 1 ヤマメ・サクラマス釣りを "する人", "しない人" の特徴

ヤマメ・サクラマス釣り する人: しない人	回答者数	平均年齢 (範囲)	主な対象魚		
			本流ヤマメ サクラマス	溪流 ヤマメ	アユ
する人	8名※1	57.3歳 (45-68歳)	4名	4名	—
しない人	6名	68.8歳 (62-78歳)	—	—	5名 ※2

※1: 釣行記録が記載されていたのは5名のみ ※2: 1名未記載

配布したアンケート 154 枚のうち回答のあった 7 名分の計 12 名の釣果情報を取りまとめた。その結果、12 名のうち 11 名は那珂川本流（以下、本流）で釣行しており（支流のみは 1 名）、本流での釣果が 63 尾ともっとも多かった（図 1 上）。しかし、1 人 1 日あたりの釣獲尾数に換算すると支流が 1.27 尾、本流が 0.64 尾と支流の方が良く釣れていた。また、全長 30 cm 以上の個体のうち、95.2%（20/21 尾）が本流での釣果であった（図 1 下）。

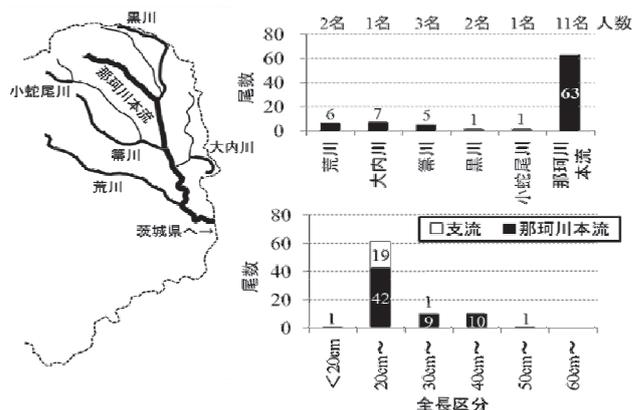


図 1 河川ごとの釣獲尾数と全長別釣獲尾数

本流における釣り人別の釣獲尾数と大きさ 本流で釣行した 11 名の釣行日数は平均 11.3 日（最少 2 日間、最多 23 日間）、1 日あたりの釣行時間は平均 2.7 時間、1 人あたりの釣獲尾数は平均 5.7 尾（最少 0 尾、最多 22 尾）であった。釣り人 11 名中 9 名は全長 30 cm 未満の個体を釣っており、全長 50 cm 台は 1 名のみであった（図 2）。とくに、全長 30 cm 台では 7 名、40 cm 台では 5 名と比較的多くの釣り人が中型サイズを釣獲していた。

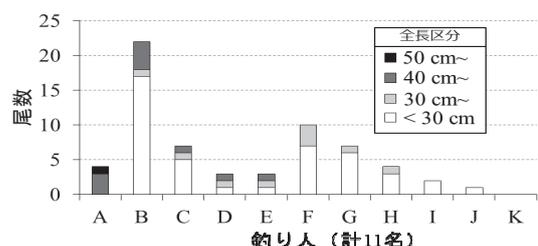


図 2 本流における釣り人別の釣獲尾数と大きさ

本流における釣り方や大きさによる釣れ具合 釣り方による釣れ具合を比較すると、全長 40 cm 未満の釣れ具合はルアー釣りよりも餌釣りの方が良かった(図 3)。また、大きさによる釣れ具合は、全長 30 cm 未満では 2 日から 4 日通って 1 尾、全長 30 cm 以上では 7 日以上通って 1 尾と大型ほど釣れにくい傾向があった。とくに、全長 50 cm を越える魚は 50 日釣りして 1 尾の釣れ具合と少なかった。

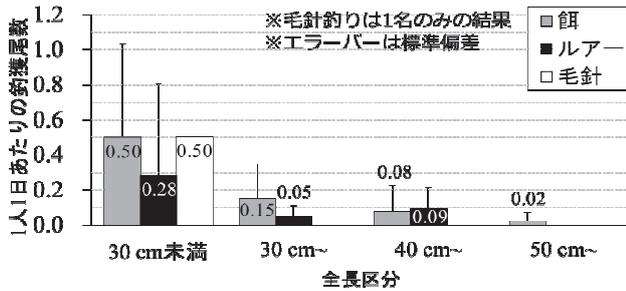


図 3 本流における釣り方や大きさによる釣れ具合

本流における大きさ別釣獲時期 全長 30 cm 未満の釣獲時期は 3 月下旬から 9 月中旬までと長いが、88.4% (38/43 尾) が 3 月下旬から 6 月中旬に釣獲されていた(図 4)。また、全長 30 cm 台の 9 尾全てが 4 月上旬から 5 月下旬に、全長 40 cm 台の 70.0% (7/10 尾) が 4 月下旬から 6 月中旬に釣られており、4 月上旬から 6 月中旬は全長 30 cm から 50 cm 未満の中型サイズがもっとも良く釣れる時期であった。

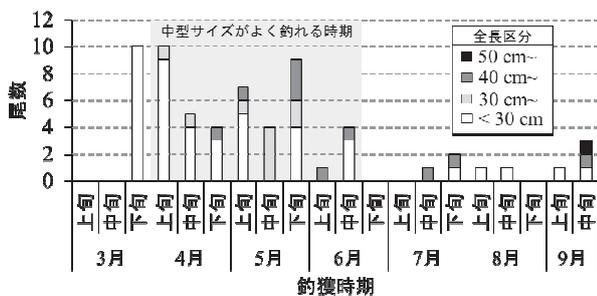


図 4 本流における大きさ別釣獲時期

本流における釣獲魚の形態的特徴 全長 30 cm 未満の個体の多くは銀毛せずにパーマークが残っており、口内や背鰭は黒色ではなかった(図 5)。一方で全長 40 cm 以上ではパーマークは確認されず、銀毛の割合が高かった。また、銀毛個体や口内・背鰭黒色個体の割合は全長が大きくなるほど高くなった。

釣獲魚の持ち帰り状況 本流で釣獲された個体では全体の 60.3% (38/63 個体) が持ち帰られており、全長 30 cm 未満で 55.8%，全長 30 cm 台で 66.7%，全長 40 cm 台で 70.0% と、全長の大きな個体ほど持ち帰り

割合は高くなった(図 6)。一方、支流(荒川・大内川・箒川・黒川・小蛇尾川)で釣獲された個体は全長 30 cm 未満が大部分であったが、持ち帰りが未記入であった 1 個体を除き、19 個体全てが持ち帰られていた。

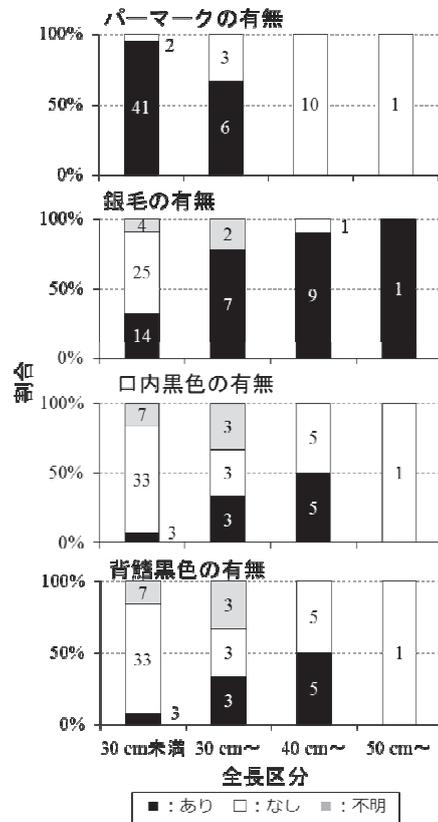


図 5 本流における釣獲魚の形態的特徴

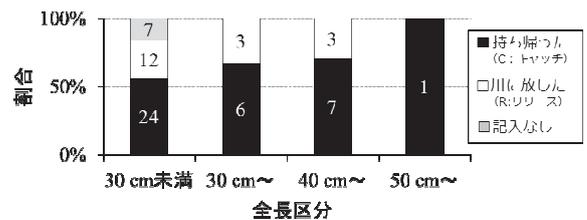


図 6 釣獲魚の持ち帰り状況

(指導環境室)